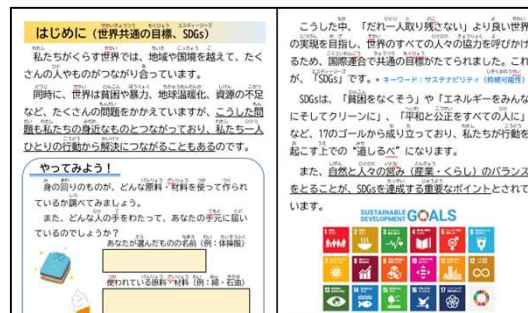


# 県東部自治体の協働によるSDGs教材の開発

- 政府における「持続可能な社会の創り手の創出」に向けた動き（→ESD）や、県内の地域団体や教育機関等から寄せられる「SDGsの実践につながる学びをどのように提供すればよいか」といった相談も背景に、令和3年9月、県東部自治体がSDGs教材開発のワーキングチームを発足。
- 「自然と人々の営みのバランス（三側面の統合性）」や、バックキャストिंगといったSDGsのポイントを踏まえながら、幅広い主体による地域課題解決に向けた活動への入り口としていただけるよう、行政界を意識しない「大地・流域」をテーマとして教材を構成。
- 開発の過程では、公立鳥取環境大学や鳥取大学の先生からもアドバイスもいただきながら、経済・社会・環境の基盤であり、かつあらゆる地域資源の由来となっている地形・地質など、日常生活で意識が向きづらいトピックスを盛り込んでいる。



9/8 ワーキングチーム会議では、柚洞准教授より導入として「流域で取り組む必要性、千代川から学び・取り組むSDGs」をテーマに講演いただき、山陰海岸ジオパーク推進協議会のオブザーバー参加のもと教材骨子案の検討等に着手した。



# 教材の構成とねらい

もくじ	
はじめに (世界共通の目標、SDGs)	1
1. 私たちがくらす流域のすがた	4
① 私たちがくらす大地	5
② 大地のレントゲン写真!?	7
③ 地域をつなぐ川	12
④ 特色ある鳥取の地形	20
2. 流域の自然と人の営み (産業・くらし)	26
① 自然と人の営み	27
② 流域の豊かな自然	29
③ 流域の産業・くらし	31
3. 流域のミライはどうなる?	40
① ミライに起こる変化	41
② 地球の温度が上がる!?	42
③ 人口は増える? 減る?	43
④ 新しい技術で便利に	44
4. 私たちのミライをデザイン!	48

三側面の基盤

三側面とその  
統合性

バックキャス  
ディング

①SDGsの概要や、「三側面(経済・社会・環境)の統合性(シナジー・トレードオフ)」「バックキャスティング」といったポイントを簡単に紹介

②自然や人の営みの基盤となる大地・流域のすがたやルーツを紹介。疑問を残しながら、トピックの深堀にもつなげていただける内容を選定

※学年により本章の内容が難しい場合は、飛ばして第2章から読んでいただくことも可

③豊かな自然と人の営みの相互関係に目を向けていただけるよう、特徴的な事例の紹介とSDGsを活用したワーク

**やってみよう!**

自然や人の営みの関わり合いを考えると、SDGsをコンパスとして使うことができます。この後に出てくる内容について、あなたが「関係がある」と思ったSDGsのゴールに○(マル)を付けてみましょう。また、周りの人と、どれに○をしたか比べて、選んだ理由を話し合ってみましょう。

<例>

【スポーツ】と関係があると思うSDGsのゴールに○(マル)をしてみましょう。また、周りの人と、どれに○をしたか比べて、なぜそれを選んだか話し合ってみましょう。

スポーツで健康になるね!

障がいがある人もスポーツを楽しめる施設ができた!

他にも関係するゴールを考えてみよう!

**前 田舎でも都市に負けず便利なくらし**

自分だけの田舎にいても雇われた学校の授業を受けられることができたり、雇われたお店の商品を買ったりすることができたりして便利なくらしができるようにしたい!

図やイラスト

SDGsの2課題をどうぞう…地元ではどれだけの食品が食べられて、どれだけの食品が売れるか  
SDGs7エネルギーを併せると…●の良くて●の悪い影響がある  
SDGs●…の悪い影響がある  
SDGs●…の悪い影響がある

災害が起きたらエネルギーがとまらぬように、近所にある小川の流れを流した発電機を自分で発電をまかせることが出来る。

④将来にありたい姿を自ら描いていただき、その達成に向け必要となる課題などを主体的に探求していただけるよう、SDGsを道しるべとしたワーク